

業 務 概 要

令和 7 年度

高知県立精神保健福祉センター

精神保健福祉センターの特色と令和7年度の重点目標

1. 精神保健福祉センターの事業の概要

A. 企画立案

高知県の精神保健医療福祉を推進していくために、主管課である障害保健支援課をはじめ、子ども・福祉政策部や健康政策部の関係各課や福祉保健所、市町村などと広く連携を取り、専門的立場から助言・提言する。

B. 技術指導及び技術援助

障害保健支援課や福祉保健所等と協働して重層的に市町村の精神保健医療福祉を支援していく。自殺やひきこもり、依存症対策の問題を含む県民の心の健康に関する課題に取り組み、地域における相談支援活動を充実させるために福祉保健所、市町村等に技術支援していくとともに多機関とも連携・協働し、事業展開を進める。

C. 人材育成

相談支援技術の向上のための研修を行っていく。事例検討会や事業検討会をとおして、福祉保健所や市町村の関係職員、医療機関や民間団体等に対して相談支援活動のスキルアップを図っていく。また、学生教育・学生実習等にも協力していく。

D. 普及啓発

精神保健福祉に関する講演会等の実施、ホームページやパンフレットの作成等、工夫を凝らした広報活動を展開していくとともに、福祉保健所、市町村等が行う普及啓発活動に対して協力、指導及び援助を行う。

E. 調査研究

精神保健福祉活動を推進するため、県内や他の都道府県、国の情報を収集整備し、高知県の地域精神保健福祉活動が効果的に展開できるように努める。

F. 精神保健福祉相談

県民からの様々な精神保健医療福祉に関する専門的な面接相談、電話相談を受ける。特に複雑困難な相談への対応を行う。

G. 組織育成

精神障害者家族会、断酒会等各種自助グループへの支援や連携を推進する。ボランティアや関係専門機関との連携・協働を図っていく。自死遺族の集いやひきこもりの親の会等への支援を行っていく。

H. 精神医療審査会の審査に関する事務

精神医療審査会に関する事務を行う。退院等の請求についても、審査の客観性、独立性を確保できる体制を整える。

I. 自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳福祉手帳

精神障害者保健福祉手帳の申請に対する判定、自立支援医療（精神通院）の支給認定、及び手帳・受給者証の交付業務を行う。

2. 令和7年度の精神保健福祉センターの重点目標

「日本一の健康長寿県構想」を基本として、県民の心の健康問題に取り組み、県民の精神保健福祉の向上を目指す。地域精神保健福祉の技術的中核機関として、福祉保健所や市町村等に対して技術指導・技術援助を行う。自殺対策推進センター、ひきこもり地域支援センターの事業を行い、県内の自殺対策、ひきこもり対策の充実を図るとともに、依存症相談拠点として、アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症対策を推進していく。

また、南海トラフ地震等の災害等に関するこころのケア等の支援を障害保健支援課と連携して推進していく。

令和7年度は特に以下のことを重点として取り組んでいく。

(1) ひきこもりの人への支援の充実（ひきこもり地域支援センター事業）

- ・市町村における相談支援体制の充実
- ・ひきこもり支援従事者等の人材の育成
- ・ひきこもりの理解促進のための普及啓発の充実
- ・ひきこもり本人や家族等への支援の充実

(2) 自殺予防対策の推進（自殺対策推進センター事業）

- ・地域の特性に応じた取組の推進及びネットワークの連携・強化
- ・自殺予防のための相談・支援の充実
- ・妊産婦、若年層、自殺未遂者等のハイリスク層への支援の充実
- ・遺族等へのケアと支援施策の充実

(3) 依存症（アルコール、薬物、ギャンブル等）対策の推進

- ・依存症の理解促進のための普及啓発
- ・相談支援体制の充実
- ・多機関（教育・保健・医療・警察・自助グループ等）との連携

(4) 地域精神保健福祉活動

- ・各福祉保健所・市町村との連携、技術支援・技術指導の強化
- ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けての技術支援
- ・南海トラフ地震等の災害等に関するこころのケア等の支援

目 次

第1	沿革	1
第2	組織及び職員	1
第3	業務・事業の執行状況	4
1	技術支援及び技術指導・関係機関相談	4
2	教育研修	5
3	普及啓発	5
4	学会発表・調査研究	5
5	精神保健福祉相談・心の健康相談	6
6	組織育成・活動支援	7
7	精神医療審査会	8
8	自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳	8
9	ひきこもり対策（ひきこもり地域支援センター事業）	10
10	自殺対策（自殺対策推進センター事業）	15
11	依存症対策（依存症相談拠点事業）	20
○	令和7年度 精神保健福祉センター予算の概要	24

第1 沿革

昭和 34 年 8 月 中央保健所内に高知県精神衛生相談所を併設する。

昭和 48 年 4 月 精神衛生センターを高知県保健衛生総合庁舎に開設する。

昭和 63 年 7 月 精神保健法への改正に伴い、精神保健センターに名称を変更する。

平成 7 年 7 月 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律への改正に伴い、精神保健福祉センターに名称を変更する。

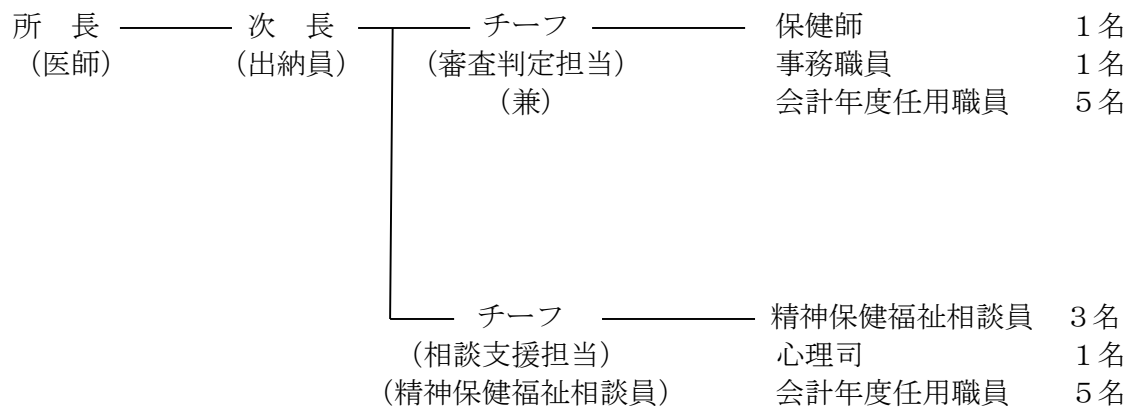
平成 21 年 4 月 自殺予防情報センター事業及びひきこもり地域支援センター事業を開始する。

平成 29 年 4 月 自殺予防情報センター事業を廃止し、自殺対策推進センター事業を開始する。

平成 30 年 4 月 精神保健福祉センターに依存症相談拠点を設置する。

第2 組織及び職員

令和 7 年 4 月 1 日現在



第3 業務・事業の執行状況（令和6年4月1日～令和7年3月末日）

1 技術支援及び技術指導・関係機関相談

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村、及び関係諸機関に対し、専門的立場から技術指導及び援助を行った。また、電話や来所等により関係機関からの相談に対し、技術協力を含め対応した。

関係機関・領域	回数	内 容
福祉保健所 高知市保健所	52	ケース会議、業務検討会、ネットワーク会議、 関係機関相談、研修講師等
市町村	103	ケース会議、ネットワーク会議、関係機関相談、 研修講師等
医療施設	49	関係機関相談、研修講師
障害者支援施設	0	ケース会議、関係機関相談
社会福祉施設	2	ケース会議、関係機関相談
各種委員会委員等	26	日本自殺総合対策学会地域理事、ひきこもりの 人等に対する支援のあり方に関する検討委員 会、高知県保健医療計画精神疾患分野検討会委 員等
その他関係機関・団体 （大学・高等学校等教育 機関、被害者支援センタ ー・産業保健推進センタ ー等関係相談機関ほか）	186	ケース会議、関係機関相談
講演、教育機関講師 （＊再掲）	(31)	大学講義、自殺対策関連研修、ひきこもりに関 する研修会、関係職員研修会、メンタルヘルス 研修会等
合 計	449	

2 教育研修

(1) 思春期精神保健事業

ア 思春期精神保健講演会

思春期の子ども及び保護者に関わる自治体の支援者（保健師等）や関係機関の職員を対象に、発達障害や心の問題など様々な生きづらさを抱える子ども・青年への理解と支援に関する学びを深めるため、県外講師を招聘し講演会を実施した。

日時・会場	内 容	参加者数
令和6年10月1日（火） 14:00～16:30 高知城ホール 4階 多目的ホール	講演テーマ 「思春期の子どもの心を支える家族をめざして ～不登校・ひきこもりの子どもの家族の場合～」 講 師 恩賜財団母子愛育会愛育研究所 顧問 齊藤 万比古 氏	73 名

イ 思春期メンタルヘルス事例検討会

幡多地域において、思春期メンタルヘルス事例検討会として、地域支援者の対応力向上とネットワーク作りのために、事例検討会を実施した。

日時・会場	内 容	参加者数
令和6年10月10日（木） 10:30～12:30 四万十市総合文化センター しまんとぴあ 和室	事例検討（3事例） スーパーバイザー 高知大学医学部寄附講座 児童青年期精神医学 特任教授 高橋 秀俊 氏 特任助教 小松 静香 氏	20 名 (10 機関)

(2) 学生実習生の受入れ

大 学 名	人 数	期 間
高知県立大学	2 名	7 月（計 15 日間）

3 普及啓発

ひきこもりの理解促進や自殺予防等について、一般県民や教育関係者等を対象とした精神保健福祉センター主催の講演会や外部機関から依頼のあった講演会、交流会等を行った。

4 学会発表・調査研究

(1) 令和6年度地域保健総合推進事業

「保健所、精神保健福祉センターの連携による、ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修と、地域包括ケアシステムによる市区町村と連携したひきこもり支援に関する研修の開催と検討」 2025年3月

(2) 令和6年度厚生労働省受託事業

「ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修・広報一式」 2025年3月

(3) 令和6年度社会福祉推進事業

「ひきこもり支援にかかる支援ハンドブックの策定に向けた調査研究事業」 2025年3月

(4) 令和6年度社会福祉推進事業

「自治体における相談支援の実施状況に関する実態及び効果的な実施方法に関する調査研究事業」 2025年3月

5 精神保健福祉相談・心の健康相談

(1) 所内相談

(件)

年 度		2	3	4	5	6	(再掲) 自殺 関連	(再掲) ひ き こもり	(再掲) 依存症
相 談 数	実	463	520	531	516	520	46	139	118
	延	2,091	2,230	2,328	2,474	2,302	88	780	414

相談来所者及び相談対象者の年齢（実件数）

(件)

年 齢（歳）	0~ 19	20~ 29	30~ 39	40~ 49	50~ 59	60~ 69	70 以上	不明	計
来 所 者	43	68	88	93	110	71	41	6	520
(再掲) 自殺関連	8	7	6	7	14	2	2	0	46
(再掲) ひきこもり	4	24	31	11	24	28	15	2	139
(再掲) 依存症	4	10	24	26	24	20	9	1	118
相談の対象者	87	104	120	92	66	33	16	2	520
(再掲) 自殺関連	15	10	8	2	8	2	1	0	46
(再掲) ひきこもり	16	41	55	15	10	1	1	0	139
(再掲) 依存症	10	18	25	34	15	13	3	0	118

相談内容の内訳（延相談数 2,302 件）（重複回答）

(%)

家 庭 問 題	治 療 ・ 医 療	心 の 健 康 問 題	性 格 ・ 行 動	経 済 問 題	仕 事 ・ 勤 務	学 校 ・ 教 育	男 女 問 題	社 会 資 源	そ の 他	意 見 等
56.2	29.0	65.4	59.9	15.4	24.1	6.3	1.7	7.1	7.8	0.0

衛生行政報告による相談目的の分類（延べ件数）

(件)

	老人 精神 保健	社会 復帰	アル コール	薬 物	ギャン ブル	ゲ ー ム	思 春 期	心の 健康 づくり	うつ	摂 食 障 害	て ん かん	そ の 他	計
実数	4	39	25	10	46	10	29	200	35	7	0	115	520
延べ 数	11	190	76	34	136	18	101	1,093	138	38	1	466	2,302

(2) 所内電話相談 (延べ件数)

(件)

年 度	2	3	4	5	6	(再掲) 自殺 関連	(再掲) ひ き こもり	(再掲) 依存症
相談数	4,659	5,181	5,165	4,549	3,918	82	317	280

*自殺関連相談は平成 29 年度から、ひきこもり相談は平成 31 年度から所内電話相談に含む。

*依存症相談はアルコール・薬物・ギャンブル依存症、ゲーム障害・摂食障害・その他依存問題を計上

衛生行政報告による相談目的の分類 (延べ件数)

(件)

老人 精神 保健	社会 復帰	アル コール	薬 物	ギャン ブル	ゲ ー ム	思春期	心の 健康 づくり	うつ	摂食 障害	てん かん	その他	計
42	40	83	7	148	13	40	1,666	87	12	1	1,779	3,918

(3) 心のテレ相談 (延べ件数)

(件)

年 度	2	3	4	5	6
相談数	856	805	679	705	792

衛生行政報告による相談目的の分類 (延べ件数)

(件)

老人 精神 保健	社会 復帰	アル コール	薬 物	ギャン ブル	ゲ ー ム	思春期	心の 健康 づくり	うつ	摂食 障害	てん かん	その他	計
8	18	8	1	4	1	17	170	21	0	1	543	792

(4) ロビー面談 (延べ件数) : 52 件

内訳 : 老人精神保健 1、社会復帰 4、アルコール 2、薬物 2、ギャンブル 1、ゲーム 0、思春期 0、心の健康づくり 13、うつ 1、摂食障害 0、てんかん 0、その他 28

(5) 訪問 (同行支援、家庭訪問) : 53 件

内訳 : 老人精神保健 4、社会復帰 10、アルコール 1、薬物 2、ギャンブル 2、ゲーム 0、思春期 1、心の健康づくり 18、うつ 3、摂食障害 5、てんかん 0、その他 7

6 組織育成・活動支援

(1) 精神障害者家族会への支援

高知県精神障害者家族会連合会、地域家族会の活動などに当たり、情報提供や助言等の活動支援を行った。

(2) 各依存症関連自助グループ・家族会への支援

研修会の講師や日常の活動に当たり、情報提供や助言などの活動支援を行った。

(3) 精神保健福祉ボランティア活動支援

高知県精神保健福祉ボランティア連絡協議会の活動に当たり、情報提供や助言、研修会開催への協力等の支援を行った。

(4) その他自助グループの活動支援

その他精神障害者の当事者活動等県内の自助グループの活動に当たり、情報提供や助言等の側面的援助を行った。

7 精神医療審査会

精神医療審査会は、昭和 62 年の精神保健福祉法改正の際に、精神障害者の人権に配慮しつつその適正な医療及び保護を確保するために、専門的かつ独立的な機関として中立公正な審査を行うものとして設置された。

平成 14 年度から精神医療審査会は、その独立性を保証すること及び専門性を持った職員がその事務を取り扱うことが望ましいことから精神保健福祉センターの業務として位置づけられた。

審査会では、精神科病院管理者から提出された医療保護入院の届出や、措置入院者の定期病状報告書、及び令和 4 年度の法改正により令和 6 年度 4 月から新たに対象となった、医療保護入院者の入院期間更新届や、知事が措置入院の措置をとった時に作成される措置入院決定報告書の書類審査のほか、精神科病院に入院中の者又はその保護者などからの退院請求や処遇改善請求の審査を行っている。

審査会の委員については、平成 17 年の法改正を受け、本県では平成 18 年 10 月から委員構成を「医療委員 2 名、法律委員 1 名、その他学識委員を 1 名から 2 名」に変更した。

また、高知県独自の地域特性と退院請求の円滑化を踏まえ予備委員 7 名を配置している。

(審査体制)

審査は、委員 29 名を 2 合議体に分けて、1 合議体定数 5 名（医療 2 名、法律 1 名、その他学識委員 2 名）で月 2 回実施している。

書類審査件数

入院形態	措置入院 決定報告書	措置入院 定期病状 報告書	医療保護入院 定期病状 報告書	医療保護 入院届	医療保護 入院更新届	計
件数 (再審査数)	37 (0)	18 (2)	190 (0)	1,573 (0)	799 (1)	2,617 (3)

* 審査結果：すべて「現在の入院形態での入院が適当」であった。

退院請求等の状況

請求件数	転帰の内訳	件数
43 件	審査実施	17
	取り下げ	10
	案件消失	11
	次年度審査	5

退院請求等審査の内訳（退院請求 17 件＋処遇改善請求 0 件＝17 件）

入院形態		病名		審査結果	
措置入院	3	統合失調症	12	現在の入院形態が適当	17
医療保護入院	14	その他	5	処遇は適当	0

8 自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳

精神保健福祉法第 6 条第 2 項第 4 号において、精神障害者保健福祉手帳の交付決定及び精神通院医療の公費負担決定に関する事務及び交付に関する事務のうち、専門的な知識及び技術を必要とするものを行うことが業務に位置づけられた。

このため、平成 14 年度から精神保健福祉センターで審査判定会を実施することとなった。

平成 16 年度からは専門的な知識、技術を伴う審査判定会にとどまらず、交付にかかる事務

全般も行うようになった。

また、平成 17 年 10 月には障害者自立支援法が成立し、精神通院医療の公費負担制度が自立支援医療（精神通院）になったが、引き続き円滑な審査判定交付事務に努めている。

精神障害者保健福祉手帳についても、引き続き円滑な審査判定交付事務に努めるとともに、福祉サービス拡大に向けて高知県障害保健支援課を中心に関係機関に働きかけている。

（委員の構成）

精神保健指定医 3 名及び所長で構成される。

（判定会実施状況）

年 14 回の開催

（判定の方法）

3 名の委員の合議により行う。

（精神障害者保健福祉手帳交付のための日本年金機構年金事務所等への照会）

判定会の決定の他に障害年金を現に受給している者については、その支給理由及び障害等級を日本年金機構年金事務所等へ照会し、精神障害による傷病と確認できた申請者に年金と同じ等級で精神障害者保健福祉手帳の交付を実施している。

自立支援医療（精神通院）承認及び精神障害者保健福祉手帳交付状況

	自立支援医療 (精神通院)	精神障害者 保健福祉手帳
審 査 件 数 (件)	14, 509	4, 270
承認及び交付件 (件)	14, 498	4, 250

自立支援医療（精神通院）承認及び精神障害者保健福祉手帳交付年間推移

年 度	2	3	4	5	6
自立支援医療 (精神通院)	4, 455	12, 498	14, 008	13, 932	14, 498
精 神 障 害 者 保 健 福 祉 手 帳	3, 417	3, 574	3, 909	4, 138	4, 250

自立支援医療（精神通院）：県外からの転入、変更、再交付状況

	県外からの転入	変更申請	記載事項変更 市町村処理分	再交付
交付件数 (件)	77	1, 982	1, 532	122

精神障害者保健福祉手帳：県外からの転入、変更、再交付状況

	県外からの転入	記載事項変更 市町村処理分	再交付
交付件数 (件)	55	384	264

9 ひきこもり対策（ひきこもり地域支援センター事業）

ひきこもり地域支援センターでは、医療・保健・福祉・教育・労働及び市町村等関係機関の連携の強化を図りながら、ひきこもり本人、家族等の支援を行う。

(1) 相談対応の状況

所内相談

相談受理件数		1,097
内訳	来所相談	780
	電話相談	317

※来所相談、電話相談は、5 精神保健福祉相談・心の健康相談（1）及び（2）からひきこもりに関する相談数を再掲

主な紹介先

若者サポート ステーション	ジョブカフェこうち	療育福祉センター	保健所	市町村	医療機関	家族サロン	その他	計
6	2	0	1	16	17	0	17	59

訪問（家庭訪問・関係機関同行）

実件数	8
延件数	13 〔 家庭訪問：4 関係機関同行：8 その他：1 〕

(2) ひきこもり支援者連絡会議

様々な背景を持つひきこもり本人、家族等を支援する者が、相談内容等に応じた適切な支援を行うため、有効な連携ができることを目的として連絡会議を実施した。

ア ブロック別会議

県内を3ブロックに分け、ブロック別に連絡会議を実施した。

回	日時・会場	内 容	参加者数
1	【西ブロック】 令和6年6月7日（金） 13:30～16:00 四万十町役場東庁舎1階 多目的大ホール	(1) 高知県地域福祉政策課より事業説明 (2) ひきこもり地域支援センターより 事業・事例報告 (3) 発達障害者支援センターより取組報告 (4) グループワーク 『支援者のつながり～新しい花の種、明日へと繋がる輪～』	33名

2	【東ブロック】 令和6年6月14（金） 13:30～16:00 夜須公民館2階大研修室		32名
3	【中央ブロック】 令和6年6月28（金） 13:30～16:00 高知城ホール4階 多目的ホール		43名

(3) 関係機関支援（所外）

ア 若者サポートステーションや市町村とのケース検討会（定期実施） 計19回

関係機関	回数	内 容
こうち若者サポートステーション	4回	ケース検討、勉強会、課題整理・検討、支援の振り返り等
土佐市	3回	
いの町	4回	
須崎市	3回	
中土佐町	2回	
四万十町	2回	
幡多福祉保健所管内6市町村	1回	

イ 市町村、関係機関とのケース検討会、勉強会（随時実施） 計19回

関係機関	回数	内 容
市 町 村	5回	ケース検討、勉強会、課題整理・検討、支援の振り返り等
高知ひきこもり ピアサポートセンター	【定例会】 11回 【相談会】 3回	

ウ 福祉保健所主催の連絡会、研修会、ケース検討会 計5回

関係機関	回数	内 容
福祉保健所	5回	管内市町村対象の連絡会・研修会での話題提供、ケース検討会への出席等

(4) ひきこもり支援者人材養成

ア 研修会

ひきこもり本人、家族等の支援に従事する職員等を対象に、ひきこもりの家族支援について学ぶ場と事例検討を通して、ひきこもりに関する理解を深め、支援のスキルの向上を図ることを目的に研修会を実施した。

回	日時・会場	内 容	参加者数
1	令和6年7月17日(水) 13:00~16:00 高知城ホール 4階 多目的ホール	高知県ひきこもり地域支援センター作成 『ひきこもり支援ガイドブック』を用いた研修 講 義:『ひきこもりの理解と支援』 講 師:精神保健福祉センター所長 山崎正雄 演 習:『グループワークを通して傾聴を学ぶ』 ロールプレイ等	57名
2	令和6年11月7日(木) 13:30~16:30 幡多福祉保健所 1階会議室	内 容:事例研究を通じた研修(1事例) 講 師:ひきこもり地域支援センター職員	18名
3	令和6年12月20日(金) 13:00~16:00 高知県民文化ホール 第6多目的室	講 義:『ひきこもりの家族支援とは~CRAFTの 応用~』 講 師:宮崎大学教育学部教授 境 泉洋 氏	73名
4	令和7年2月28日(金) 13:30~16:30 土佐市保健福祉センター 家族介護実習室	内 容:事例研究を通じた研修(2事例) 講 師:ひきこもり地域支援センター職員	19名

(5) ひきこもりに関する普及啓発

ア 地域講演会・交流会

様々な立場の者がひきこもりの理解を深め、地域社会の中でのひきこもり支援、若者支援を充実させることを目的として実施した。

回	日時・会場	内 容	参加者数
1	令和6年9月13日（金） 13:00～16:00 高知男女共同参画センター ソーレ 3階 大会議室、研修室 1・2・3	つながるフェスタ 【トークショー】 『いの町の農福連携について ～支援者・雇用主・体験者それぞれの立場から～』 〈登壇者〉 ・尹 嬌 氏（いの町社会福祉協議会 農福連携コーディネーター） ・西村 良子 氏（就労体験受入事業者） ・就労体験利用者1名 【出張版青年期の集い】 （1）DVD上映『ひきこもりからの回復 あなたは一人じゃない～様々な支援の形・地域編～（2017）』 （2）グループトーク （3）アクティビティ・マジックショー （4）作品展示	70名
2	令和7年3月8日（土） 13:00～16:15 高知市文化プラザかるぼーと内 中央公民館 講演:11階 大講義室 交流会:9階 第一学習室	講演:『経験者が語るひきこもり～解決ではなく共にあること～』 交流会:『青年期の集い女子ミーティング special版!!「ひきこもり女子会 in 高知」』 講師:一般社団法人ひきこもり UX 会議 代表理事 林 恭子 氏	72名

イ オーテピア連携展示

県民の方々へ、ひきこもりへの理解を促すとともに、ひきこもり支援に関する相談窓口等の周知を行うことを目的に実施した。

展示期間・場所	内 容
令和6年11月1日（金）～30（土） オーテピア高知図書館 2階 総合カウンター前 展示スペースB	【展示名】社会に踏み出すことに不安を抱える方（ひきこもりの人等）やそのご家族へ ～ひとりで悩まないで～ ・ひきこもりや不登校に関する書籍の展示 ・ひきこもり地域支援センターのリーフレット等の配布

(6) 居場所づくり支援

ア ひきこもり本人への支援

ひきこもり本人への居場所づくりとしてグループ活動を実施した。

目 的	ひきこもり状態にある青年や対人関係等で悩みをもつ青年（概ね 30 代まで）を対象に、同じような悩みや思いを持つ人同士が話をしたり、スポーツ、外出等の様々な活動をしながら、安心して過ごすことで人との関わりに慣れていく場とする。
内 容	創作活動、フリートーク、外出等
開催回数	『青年期の集い』48 回（毎週水曜日） 『青年期の集い女子ミーティング』12 回（毎月第 4 金曜日）
参加者数	延人員 202 名 『青年期の集い』178 名 『青年期の集い女子ミーティング』24 名

イ ひきこもり家族教室

ひきこもりへの理解や家族としての対応等、同じような経験をもつ者同士が一緒に学び、交流することを目的として開催した。

回	日時・会場	内 容	参加者数
1	令和 7 年 1 月 21 日（月） 14:00～16:00 保健衛生総合庁舎 1 階 グループ室 I	テーマ：家族間のコミュニケーションの取り方について （1）ロールプレイ （2）フリートーク	11 名
2	令和 7 年 2 月 18 日（火） 14:00～16:00 保健衛生総合庁舎 1 階 グループ室 I	テーマ：家族間のコミュニケーションの取り方について （1）ロールプレイ （2）フリートーク	8 名

(7) ひきこもり体験者による個別交流事業

ひきこもり状態にある方が、ひきこもり地域支援センターの相談場面等で、個別に、同じような体験を持つ方（ピア活動メンバー）と交流することで、新しい気づきを得たり、今後の取組を考える機会とする。

(8) 普及啓発・技術支援

ひきこもりに関する講演会、研修会の講師（関係機関職員対象）

派 遣 回 数	6 回
---------	-----

(9) ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会関係業務

ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会の会長業務及び事務局業務を中心に、研究協議会にて、高知県ひきこもり地域支援センターの取組に関する活動報告を行った。

日時・会場	内 容
令和6年11月25日(火) 12:30~16:30 ピュアリティまきび (岡山県)	(1) 事業説明等 厚生労働省社会・援護局地域福祉課 ひきこもり支援専門官 松浦 拓郎 氏 (2) 『精神保健福祉相談における歴史とひきこもり支援～保健所から市町村へ～』 鳥取県立精神保健福祉センター 所長 原田 豊 氏 (3) 話題提供 『ひきこもり支援～高知県でのひきこもり支援の取り組みをとおして～』 高知県ひきこもり地域支援センター 所長 山崎 正雄 (4) グループワーク

10 自殺対策（自殺対策推進センター事業）

平成29年4月1日より高知県自殺対策推進センターを設置。それに伴い、高知県自殺予防情報センターは平成29年3月31日をもって廃止した。

また、令和3年度より主管課から自殺対策推進センターに市町村自殺対策計画の進捗管理業務が移管され、管内福祉保健所と連携を図りながら市町村支援を行うこととなった。

さらに、保健・福祉・医療・労働・教育・警察等関係機関と有機的な連携を図り、自殺に追い込まれることのない地域づくりを推進していくと同時に、地域における相談対応力の向上を目的としたゲートキーパー養成研修等の人材育成事業や若年層対策として推進が求められている「SOSの出し方に関する教育」の実施体制構築の支援及び「子ども若者自殺危機対応チーム」設置に向けた基盤整備を進めている。

また、令和5年7月からは救急医療機関と連携した自殺未遂者支援事業「Hope to Life」の取組を開始し、自死遺族支援とともにハイリスク者支援の強化を図っている。

(1) 相談対応の状況

ア 所内相談

相談受理件数		170
内 訳	来所相談	88
	電話相談	82

※来所相談、電話相談は、5精神保健福祉相談・心の健康相談（1）及び（2）から自殺に関する相談数を再掲

主な相談内容の内訳

家庭問題	健康問題	経済問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	計
46	38	10	4	4	15	53	170

主な紹介先

福祉事務所 (生活保護)	法律関係	消費生活センター	市町村・福祉保健所	医療機関 (主治医含む)	その他	計
0	3	0	2	5	8	18

(2) 自殺・依存症対策ネットワーク会議

地域共生社会の実現に向けて、自殺や依存症関連問題などの様々な悩み、生きづらさを抱えた人を地域のなかで包括的に支援していけるよう、医療機関をはじめ地域における多機関連携の強化と取組の推進を目的とした「自殺・依存症対策ネットワーク会議」を開催した。

日時・会場	内 容	参 加 機関数
令和6年 5月21日(火) 14:00~16:30 ちより街テラス ちよテラホール	1 高知県の現状及び自殺・依存症対策の取組(障害保健支援課) 2 精神保健福祉センターの相談状況と事業説明 3 取組紹介 高知県自殺未遂者支援事業「いのちつなげる Hope to Life~救急医療から地域につなぐ自殺未遂者支援~」 4 グループワーク 5 各関係機関による情報提供	44 機関 (63 名)

(3) 人材育成研修 (地域自殺対策強化事業)

ア 自殺予防ゲートキーパー養成研修実施者テキスト実践活用のためのワークショップ

毎年、研修を具体的に進めるための手引き「ゲートキーパー養成研修実施者テキスト」を活用しながら、地域においてゲートキーパー養成研修を幅広く実施してもらえるよう実践活用のためのワークショップを開催しているが、令和6年度はテキスト改編のため実施なし。

令和7年度は第2版テキストを活用のうえ実施予定。また、本初版テキストを活用し、令和6年度にゲートキーパー研修を実施したとの報告があった市町村は1市町村、2保健所、関係機関は社会福祉協議会(4回実施 41名養成)であり、合計612名のゲートキーパー養成につながった。

イ 市町村自殺対策事業の進捗管理支援

令和4年度に第4次自殺総合対策大綱が閣議決定されたことから、本県においても第3期高知県自殺対策行動計画(令和5年4月)を策定し、それに伴う市町村自殺対策計画の見直し及び地域の実情に応じた自殺対策の推進が一層求められている。そのため、高知県地域自殺対策推進センターでは管内のエリアマネージャーとして、市区町村の自殺対策計画の進捗管理支援等を中心に取組推進に役立ててもらえるよう「地域自殺実態プロファイル」のデータ提供や各種研修等の情報提供、自殺対策進捗状況調査の集約及び共有を主管課及び圏域の福祉保健所ともに実施した。

ウ 若者層対策（若者向けゲートキーパー研修）

若者を対象としたゲートキーパーの養成に取り組むとともに、若者からの相談に対して適切な対応や支援ができるよう、教職員を対象とした研修を実施した。

回	日時・会場	内 容	受講者数
1	令和6年7月25日（木） 13:30～15:30 高知大学（特別講義）	<若者向けゲートキーパー研修> ・若年層の相談行動の特徴とゲートキーパーの役割 ・自殺予防とメンタルヘルス ・自殺危機にある方の心理状態（当事者体験発表） ・自殺危機にある学生に直面したときの対応 ・グループワーク 等 講師：精神保健福祉センター職員	大学生・教職員・事務員等 218名
2	令和6年7月31日（水） 14:30～16:45 高知工業高等専門学校（特別講義）		
3	令和7年12月17日（火） 13:30～16:30 高知大学保健管理センター物部キャンパス（特別講義）		

エ 「児童・生徒のSOSの出し方に関する教育研究事業」推進リーダー会議

小中高生を対象とする「SOSの出し方に関する教育」の推進が国の重点施策に位置づけられていることから、県教育委員会事務局との共催で、本授業の推進校のリーダー、管理職およびスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、推進校管轄地域の福祉保健関係者等を対象とした研修を実施した。

日時・会	内 容	参加者数
令和6年 6月20日（木） 13:30～16:30 高知県立心の教育センター・オンライン	1. 基調講演「SOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育の進め方」 講師：窪田 由紀氏（九州産業大学 産学共創・研究推進本部 科学研究費特任研究員） 2. 学校と地域の協働による「SOSの出し方に関する教育の推進について」パネルディスカッション 登壇機関：高知県立中村高校、高知県立国際高校、安芸福祉保健所、いの町の本教育実践校および地域機関	会場参加 16名 オンライン参加 43名 合計 59名

* 令和4年度に県教育委員会事務局との協働事業として実施した「児童生徒のSOSの出し方に関する教育」モデル事業のなかで、当センターが作成した教育指導案を活用し、児童生徒への授業実施を検討している学校および教職員に対して、教育指導案の伝達研修も行っており、令和6年度は6月26日に香我美中学校で実施した。

オ 市町村・福祉保健所・関係機関等主催研修への技術支援（再掲）
自殺対策に関する研修会、ネットワーク会議、事例検討会等への技術支援・講師

派遣回数	10 回
派遣内容	・教育機関主催研修会等（教職員対象 3 回、学生対象 2 回） ・福祉保健所主催連絡会、ネットワーク会（5 回） ＊内容により精神保健福祉センター職員以外にも体験者が同行して実施

（４）ハイリスク者支援 高知県自殺未遂者支援事業「いのちつなげる Hope to Life」

ア 自殺未遂者支援

本事業は、自殺対策基本法（平成 18 年法律第 85 号）及び自殺総合対策大綱（令和 4 年 10 月 14 日閣議決定）に基づき策定された第 3 期高知県自殺対策行動計画（令和 5 年 4 月作成）における推進体制の連携において、救命救急センター等で治療を受けた自殺未遂者とその家族のなかで支援の同意が得られた支援対象者に対して、退院後（帰宅後）早期にかかわり、自殺につながる様々な問題の解決に向けた包括的な支援を行い、自殺の再企図を防ぐための救急医療機関との地域連携を目的としており、令和 5 年 7 月から高知医療センターとの協働事業として、自殺未遂者支援事業「Hope to Life」の取組を開始した。

回	日時・会場	連絡会内容	紹介ケース数
1	令和 6 年 8 月 16 日（金） 16:00～17:30 高知医療センター	1. 高知医療センターの自殺未遂者対応報告 2. いのちつなげる「Hope to Life」事業導入後の支援状況の報告（精神保健福祉センター） 3. 事業開始後の課題共有・意見交換	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月末 32 件

イ 「子ども若者自殺危機対応チーム」設置に向けた基盤整備及び事業説明会

近年、小中高生の自殺者数は過去最多の水準であり、第 4 次自殺総合対策大綱においても学校と地域の支援者等が連携し自殺対策にあたることのできる仕組みの構築について盛り込まれている。そのため、学校や市町村等における自殺リスクが高いと思われる困難ケースに関わっている地域支援者に対する技術支援を行う、多職種の専門家で構成される「子ども若者の自殺危機対応チーム」の設置に向けた基盤整備及び事業説明会を実施した。

「子ども若者自殺危機対応チーム」専門家構成委員及び構成機関		
①高知大学 医学部神経精神科学教室 特任教授	高橋 秀俊 氏	
②高知大学 医学部神経精神科学教室 特任助教	小松 静香 氏	
③高知医療センターこころのサポートセンター長	澤田 健 氏	
④高知医療センターこころのサポートセンターソーシャルワーカー	藤井 しのぶ氏	
⑤高知医療センターこころのサポートセンター臨床心理士・公認心理師	山路 由夏 氏	
⑥高知医療センターこころのサポートセンター精神科認定看護師	岡村 邦弘 氏	
⑦海辺の杜ホスピタル 臨床心理士・公認心理師	杉本 園子 氏	
⑧海辺の杜ホスピタル 精神保健福祉士	山本 友里恵 氏	
⑨高知工科大学共通共有教室教授・高知県臨床心理士会会長	池 雅之 氏	
⑩高知県弁護士会 あさひの風法律事務所弁護士	中島 香織 氏	
⑪高知県精神保健福祉士協会 会長	宮本 彰 氏	

⑫高知県薬剤師会 安芸支部理事 学校薬剤師 <実施主体>高知県子ども・福祉政策部 障害保健支援課 <運営事務局>高知県立精神保健福祉センター（地域自殺対策推進センター） <連携協力機関>高知県教育委員会事務局 人権教育・児童生徒課 <モデル圏域サポートチーム>安芸福祉保健所	田村 昌士 氏
---	---------

回	日時・会場	事業説明会内容	参加自治体
1	令和7年3月19日 (水) オンライン	1. 「子ども若者自殺危機対応チーム」の全国設置に向けた国の動向及び事業スキームについて （厚生労働大臣指定法人・一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター地域連携推進チーム） 2. 高知県の自殺の現状と取組について （高知県子ども・福祉政策部障害保健支援課） 3. 高知県「子ども若者自殺危機対応チーム」の概要と支援要請の流れ・事例の紹介等 （高知県立精神保健福祉センター・高知県教育委員会人権教育・児童生徒課）	21 市町村（広域連合含む） 5 福祉保健所 2 教育関係機関 障害福祉部署 母子保健部署 学校教育課等の関係職員 66 名

（５）自死遺族支援

ア ひだまりの会

自死遺族が互いに想いを語り、安心して気持ちを分かち合える場として「ひだまりの会（自死遺族の分かち合いの会）」を実施した。

目 的	自死（自殺）により家族を亡くした方が、同じ体験をした者同士の集いの場で安心して想いを語り、苦しみや悩みを共有することで癒され、前に進むことができるように支援する。
内 容	グループミーティング
開催回数	6 回（偶数月第 4 木曜日） 奇数月は自助開催
会 場	精神保健福祉センター グループ室
スタッフ	精神保健福祉センター相談員、自殺対策専門員
参 加 者	延人員 30 人（新規 6 名） ※自助開催の参加人数を含まない。

イ 自死遺族支援ひだまりの会講演会

自死や不慮の事故、病気等により突然家族を亡くした場合、遺族の受ける心理的影響やその後の生活への不安は大きく、また、自死の場合は遺された悲しみを周囲の人に語ることが困難に感じ、地域・社会から孤立してしまうこともある。そのため自死遺族の心理や置かれている状況を理解し、必要な自死遺族支援と寄り添いについて考える機会とするために講演会を実施した。

日時・会場	内 容	参加者数
令和7年2月23日（日） 14:00～16:30 高知城ホール 中会議室	「ひだまりの会」講演会 第1部 基調講演 「大切な人を亡くされた方の悲しみにどう向き合い、寄り添うか～喪失から希望へつなぐ～」 講 師：米虫 圭子 氏 （京都産業大学 グリーフ・ケアカウンセラー） 第2部 自死遺族交流会	講演会 30名 交流会 2名

11 依存症対策（依存症相談拠点事業）

平成30年4月から、依存症相談拠点機関として、相談支援体制の構築を図るとともに、アルコール、薬物、ギャンブル等の様々な依存・アディクション関連問題に対応できる人材の育成や啓発、他機関との連携強化を目的とした取り組み等を推進している。

（1）相談対応の状況

所内相談

相談受理件数		694
内 訳	来所相談	414
	電話相談	280

※来所相談、電話相談は、5 精神保健福祉相談・心の健康相談（1）及び（2）から依存症に関する相談数を再掲

※電話相談については、薬物、アルコール、ギャンブル依存症、ゲーム障害、摂食障害の相談を計上

※来所相談については、上記に加え、その他の依存症を含めて計上

主な相談内容の内訳（来所相談）

※ひきこもり相談や自殺関連相談として来所のあったものを一部含む。

アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム障害	摂食障害	その他	計
76	34	136	18	38	112	414

（2）依存症相談拠点事業 ネットワーク・連携強化事業

ア 自殺・依存症対策ネットワーク会議（再掲）

自殺や依存症関連問題などの様々な悩み、生きづらさを抱えた人を地域のなかで包括的に支援していけるよう、医療機関をはじめ地域における多機関連携の強化と取組の推進を目的とした「自殺・依存症対策ネットワーク会議」を開催した。

イ アディクション・フォーラム実行委員会

啓発事業「アディクション・フォーラム高知」の企画運営のため、高知県内の医療、保健、福祉関係 10 機関、9 自助グループ、1 民間団体で実行委員会を立ち上げた。本委員会を高知県内の依存症支援に携わる機関、団体同士の連携の機会とし、アディクションフォーラムの企画運営だけでなく情報共有や互いに話し合う場を設け、さらなる連携強化を図った。

日時・会場	内 容	参加者数
令和6年5月21日（火） 18:00～19:30 ちより街テラス 3階 会議室	1 今年度委員自己紹介 2 本会の説明 3 今年度のアディクションフォーラムの日程と会場の検討 4 情報交換等	19 機関 28 名
令和6年8月20日（火） 18:00～19:30 オーテピア 4階 集会室	1 フォーラム内容（テーマ）について 2 プログラム案の検討等 3 情報交換等	20 機関 26 名
令和6年11月19日（火） 18:00～19:30 オーテピア 4階 集会室	1 フォーラム当日の連絡事項 2 当日役割分担 3 情報交換等	18 機関 23 名

（3）アディクション・フォーラム高知

一般県民を対象に、多様化するアディクション等関連問題についての正しい知識と、地域の取組等の情報発信を行い、回復支援について考える機会とするための普及啓発事業を開催した。また、会場参加者へ「依存症当事者・家族・支援者のための相談窓口ガイド」を配布し、県内依存症自助グループや民間団体、支援機関などの情報発信のためリーフレットやポスターなどを展示した。

日時・会場	内 容	参加者数
令和6年11月30日（土） 14:00～16:30 高知工科大学 香美キャンパス	【ミニ講座】 「若年層へ予防教育とその取組み」 ASK 認定依存症予防教育アドバイザー 小松 麻理 氏 【トークセッション】 「自助グループとわたし」 進 行 土佐病院 山崎 聡 心理士 GA土佐ピアグループメンバー 登壇者 NPO法人高知県断酒連合会、AKKこうち、AA高知グループ、高知ダルクインテグレーション、ACODAベイビーステップ高知 【地域からのメッセージ】 （1）模擬例会・ミーティング NPO法人高知県断酒連合会、GA土佐ピアグループ、ギャマノン土佐よさこいグループ （2）活動報告・活動紹介等 AKKこうち、AAグループ、NA高知・きょうだけグループ 【音楽ライブ】 浜端ヨウヘイ ミニライブ	97 名

(4) 依存症相談拠点事業 依存症相談支援基礎研修会

保健、医療、福祉関係機関職員などを対象に、依存症支援の基本的な知識の習得と対応を学ぶための研修を実施した。

日時・会場	内 容	参加者
令和6年10月23日(水) 14:00~16:00 オンライン配信	テーマ「依存・アディクション支援をはじめるためにー生活場面の面接で活用するあの手この手ー」 講 義 「依存症をもつ人と家族への相談支援」 講 師 国立精神・神経医療研究センター／NPO法人八王子ダルク 精神保健福祉士・保健学博士 近藤 あゆみ氏 情報提供 「高知県内での依存症支援の連携先とつながり」 質疑応答	88名 (申込者数)

(5) 依存症セルフヘルプグループ見学会

保健、医療、福祉関係機関職員などを対象に、自助グループの例会やミーティングに参加することで自助グループの活動や存在意義を知り、また意見交換を通じて連携強化を図った。

日時・会場	内 容	参加者
令和6年9月26日(木) 13:30~15:00 高知ダルク・インテグレーション	高知ダルク・インテグレーション (薬物依存症当事者)	12名
令和6年10月2日(水) 13:00~15:00 高知市勤労者交流館 2階 会議室	全国薬物依存症家族会連合会高知支部 (薬物依存症家族)	5名
令和6年10月6日(日) 14:00~16:00 高知市下知コミュニティセンター	G A土佐ピアグループ (ギャンブル等依存症当事者)	1名
令和6年10月13日(日) 14:00~16:00 こうち男女共同参画センターソーレ 3階 研修室	ギャマノン高知(ギャンブル等依存症の家族)	4名
令和6年10月16日(水) 19:00~20:30 江ノロカトリック教会ボランティアビューロー	N A高知グループ・きょうだけグループ (薬物依存症当事者)	8名
令和6年10月20日(日) 14:00~16:00 こうち男女共同参画センターソーレ 3階 研修室	A G S高知グループ (アルコール・ギャンブル・ショッピング依存症当事者)	3名

令和6年11月14日（日） 13:00～15:00 高知県断酒新生会事務所	高知県断酒連合会（アルコール依存症当事者、 家族）	5名
令和6年11月14日（木） 19:00～20:30 高知市下知コミュニティセンター	AAグループ（アルコール依存症当事者）	18名
令和6年11月17日（日） 11:00～12:00 土佐市複合文化施設つな一で	ギャマノン土佐よさこいグループ（ギャンブル等依存症の家族）	4名

（6）市町村・福祉保健所・関係機関等主催研修への技術支援（再掲）

派遣回数	11回
------	-----

令和7年度 精神保健福祉センター予算の概要

(千円)

7年度事業名			R7 当初予算	内容
予算計上課	細目事業名	細々目事業名		
薬務衛生課	薬事指導取締事業費	薬物乱用対策新五か年戦略推進事業費	372	職員研修負担金、事務費（報償費、その他事務費（旅費、需用費、役務費））
障害保健支援課	精神保健対策費	依存症対策事業費	756	依存症対策事業報償費、その他事務費（旅費、需用費、役務費、委託料、使用料）
障害保健支援課	精神保健対策費	依存症相談拠点機関事業費	942	職員研修負担金、事務費（依存症相談拠点機関事業報償費、その他事務費（旅費、需用費、役務費、使用料））
障害保健支援課	自殺対策費	自殺対策推進センター事業費	10,258	健康診断委託料、職員研修負担金、事務費（会計年度任用職員報酬・手当等・共済費・通勤手当相当、その他事務費（報償費、旅費、需用費、役務費））
障害保健支援課	自殺対策費	自殺対策担当者等人材養成事業費	328	事務費（自殺対策担当者等人材養成事業報償費、その他事務費（旅費、需用費、役務費））
障害保健支援課	自殺対策費	自死遺族支援事業費	341	事務費（自死遺族支援事業報償費、その他事務費（需用費、役務費、使用料））
障害保健支援課	自殺対策費	自殺未遂者支援事業費	604	職員研修負担金、事務費（報償費、その他事務費（旅費、需用費、役務費、使用料））
障害保健支援課	精神保健福祉センター費	管理運営費	5,325	職員研修等負担金、事務費（その他事務費（旅費、需用費、役務費、使用料））
障害保健支援課	精神保健福祉センター費	思春期精神保健事業費	478	事務費（思春期精神保健支援者講演会講師謝金）その他事務費（旅費、需用費、役務費、使用料）
障害保健支援課	精神保健福祉センター費	精神医療審査会費	28,251	職員研修等負担金、事務費（精神医療審査会委員報酬、手数料、その他事務費（旅費、需用費、役務費、使用料））
障害保健支援課	精神保健福祉センター費	精神障害者保健福祉手帳等交付事業費	29,142	申請データ入力等委託料、精神保健業務電算管理システム再構築等委託料（精神保健業務電算管理システム保守管理委託業務・マイナンバー点検対応）、事務費（会計年度任用職員報酬・職員手当等・共済費・通勤手当相当、審査委員報償費、その他事務費（需用費、役務費、備品購入費））
障害保健支援課	精神保健福祉センター費	心の健康づくり相談事業費	3,230	事務費（心の健康づくり相談経費、会計年度任用職員通勤手当相当、その他事務費（需用費））
障害保健支援課	精神保健福祉センター費	地域精神保健福祉推進事業費	78	事務費（その他事務費（旅費、需用費、役務費））
地域福祉政策課	ひきこもり自立支援対策費	ひきこもり地域支援センター事業費	14,456	健康診断委託料、職員研修等負担金、事務費（会計年度任用職員報酬・職員手当等・共済費・通勤手当相当、関係機関連絡会議話題提供者謝金、普及啓発・研修・居場所づくり報償費、障害保険料、その他事務費（旅費、需用費、役務費、使用料））